

平成 8 年度選択性漁具・漁法新技術開発事業 水産庁事業名：資源管理等沿岸漁業新技術開発事業

(抄 録)

原 子 保

目 的

日本海沿岸域においてヤリイカを主体として操業している底建網には、11月から12月にかけて0⁺～1⁺才魚のタイ類幼魚がある程度まとまって漁獲される場合があるが、魚価が安く銘柄によっては魚市場で購入しない場合もある。

このような幼魚の混獲を防止しつつ、ヤリイカの漁獲に支障のない漁法を開発し、もって資源有効利用の観点から望ましい漁業への移行を図る。

場 所 深浦町大戸瀬

期 間 1996年11月～12月

方 法

試験網は底建網の後半部の天井の目合を66mm、操業網は50mmとして、水深40～60mの海域へ設置し、漁獲魚種、漁獲量、漁獲金額等を比較調査した。

マダイは尾叉長及び体重、ヤリイカは外套背長及び体重を測定し、Fisher-Behrens検定により、危険率1%の有意判定を行った。

結 果

1. マダイの0⁺魚は、試験網ではまったく漁獲されず、操業網でもほとんど漁獲されなかった。
2. ヤリイカは、まったく漁獲されなかった。
3. 66mmと50mmの目合で漁獲されたマダイの魚体に、有意差はなかった。
4. 66mmの目合には、カワハギやマサバが目掛りした。
5. 200g以下のタイ類の漁獲量の変動は、17.3～87.2 t と非常に大きい。
6. ヤリイカを漁獲する網とタイ類を漁獲する網とでは、それぞれの底建網の網口が90度異なるため、ヤリイカを漁獲する網のタイ類の混獲率は非常に低いものと考えられた。